

京極読書新聞 <第11号>

発行日 平成22年 3月 3日(水)
京極町生涯学習センター湧学館

一年間を終えて 平家物語読書会 講師 村山 功一 (むらやま・こういち)

今年度開講の文学講座の一つとして、『平家物語』を読む会」を担当させていただいて、一年が経過しようとしている。この間毎回お手数をお掛けしている生涯学習課職員、図書館司書の各位、そして、私の拙い講義に熱心に耳を傾けてくれる会員の皆様に、心から感謝申し上げる次第である。

国民の文学といわれる『平家物語』ではあるが、十二巻プラス「灌頂巻」までの全文を読んだ人は、意外と少ないものと思われる。

そこで、開講に当たって一年間で全巻読破を目標に掲げた。月二回の講座だから、一ヶ月平均一巻ずつ読むと一年間での全巻読破は可能である、と考えた。

ところが、二回三回と回を重ねるうちに、朗読のプロでもない私が「祇園精舎の鐘の音諸行無常の響きあり…」と、嗩声（さいせい）を張り上げるばかりでは、何とも芸のない話ではないかと思うようになった。たしかに、このペースで進めば一年間で読み終えることはできるだろう。だが、これでは古典『平家物語』の持つ優れた文学性のもとより、その魅力、感動などを取り取ることはできない。特に『平家』のようにヒストリーとストーリーの狭間を行きつ戻りつするジャンルでは、時代背景や文化や言葉などの必要最少限の知識がなければ、『平家』世界に

生き、そして死んでいった人々の息吹を感じることはできないだろう。こう考えて、多少の解説・解釈（それは概ね“脱線”なのだが）を加えることにした。

会員の皆さんは知識・教養を備え、かつ人生経験豊かな方々なので、私の解説など“釈迦に説法”の類であることを承知の上で、つい余談にまで及んでしまっている。そんな私の駄弁にお付き合いいただきつつ、毎回和気藹々とした時間を過ごしている。

かくて、当初の目標はどこへやら、今やっと「巻二」に入っただけである。

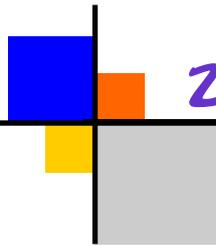
という訳で、関係各位、会員の皆様、今後とも、ひとつよしなに……。



京極読書新聞は
毎月1日発行です。

《平家物語読書会 活動状況》

- ① 5/22: 開講式・説明「平家琵琶」CDおよびNHK松平アナウンサー朗読CDを聴く
- ② 6/5: 巻一「祇園精舎」「殿上闇討」「鱸」「禿髪」「吾身栄花」
- ③ 6/19: 「祇王」
- ④ 7/3: 「祇王」
- ⑤ 7/17: 「祇王」
- ⑥ 8/7: 「二代后」
- ⑦ 8/21: 「二代后」「額打論」
- ⑧ 9/4: 「清水寺炎上」
- ⑨ 9/18: インフルエンザに伴う休止
- ⑩ 10/2: 『平家物語』の史蹟を訪ねて一嵯峨野編（黒滝千織・作成）鑑賞
- ⑪ 10/16: 「東宮立」「殿下乗合」「鹿谷」
- ⑫ 11/ 6: 「鹿谷」「俊寛沙汰・鶴川軍」
- ⑬ 11/20: 「願立」
- ⑭ 12/ 4: 「御輿振」
- ⑮ 12/18: 「内裏炎上」
- ⑯ 1/8: 巻二「座主流」「一行阿闍梨沙汰」
- ⑰ 1/22: 「西光被斬」
- ⑱ 2/5: 「小教訓」
- ⑲ 2/6: 製本講習会に全員参加
- ⑳ 2/19: DVD「上原まりと平家物語」鑑賞



2009年度 出前図書館

～ 京極小学校 編 ～

一年間をふりかえって

京極小学校 内山 由美子 (うちやま・ゆみこ)

今年度、初めて出前図書館を、京極小学校でもやっていただきました。

本校は、三年前から朝読書に取り組み、朝の会が終わった十分間は、学校中がシーンと静まりかえり、どの学級も読書をしています。子どもたちが読んでいる本は、二か月に一度、湧学館からの集団貸し出しで借りた本がほとんどです。

そのような活動の中、湧学館の職員の方の図書に関する知識をもっと子どもたちに伝えていただきたいと思い、出前図書館をお願いしました。

二週間に一度の出前図書館を楽しみにしている子は、大勢います。始まりの紙芝居は、ユーモアたっぷりのものや、ドキドキしながらつぎはどうなるのだろうというものなど、子ども

ちを紙芝居の世界へ引き込んでしまうほどです。

また、子どもたちに読みたい本のアンケートをとり、その本を次回持ってきてくださるので、そちらの方も人気が高いです。本を借りようと図書室に来て、もう借りられていて、残念な思いをした子も少なくありません。

さらに、季節に合わせた「しおり」をもらえるのも楽しみにしているようです。

湧学館の職員の方には、出前図書館を開催するのにあたり、多くの時間を費やしてくださっていることを心より感謝いたします。

次年度も、子どもたちの心にさらに伝わる出前図書館を期待しています。



京小出前図書館

湧学館 向出 絵梨香(むこうで・えりか)

京極小学校への出前図書館は「ほぼ月2回」「中休み・昼休み」と一番回数の多いものになりました。次回の出前図書館に持ってきてほしい本などを記入する『出前図書館アンケート』はとても好評で、毎回様々なアンケートが集まり、掲示用のコルクボードには子どもたちみんなからの本に対する思いが詰まっています。出前図書館が始まった頃、湧学館から持っていく本はほんの20冊ほどでしたが、アンケートの枚数がどんどん増え、貸出もできるようになったり…と図書室へ持っていく本も次第に多くなってきました。

毎回、図書室で準備をしながら「今日はどんな本が人気かな～？」と休み時間の始まりのチャームをわくわくしながら待っています。図書室にやってくる子どもたちにも、休み時間が待ち遠しく思ってもらえるような存在として定着していければと思います。



京小出前図書館 実施スケジュール
 6/ 4(木)、6/25(木)、7/ 2(木)
 7/23(木)、8/27(木)、9/10(木)
 10/ 1(木)、10/15(木)、11/12(木)、
 11/26(木)、12/10(木)、12/24(木)
 1/21(木)、2/18(木)、3/ 4(木)

研修を振り返って

湧学館 佐々木 和恵 (ささき・かずえ)

昨年4月からこの春3月まで、一年間の長期研修で湧学館にお世話になっています。一年もある！と思っていたのに…アツという間でした。

普段は農業の教員で、農場での仕事が多い私にとって、室内で、パソコンを使う機会が多く、様々な年齢層の方々が来館される湧学館図書での仕事は、とても勉強になりました。

中でも特に勉強になったのは、各種講座、出前図書館です。園芸講座、チャレンジ教室、湧水塾、フラワーアレンジメント講座などの事業に参加させて頂いたことで、子どもから大人まで幅広い方達と一緒に勉強する機会を持ってました。また出前図書館で小・中学校を定期的に訪問、読書啓蒙活動に参加できたことで若年層での読書習慣の習得の重要性を改めて実感しました。今までと違った視点で地域の方達や、義務教育の現場と関わりを持ってた経験を、今後は教育現場で生徒に還元していきたいと思っています。

そして研修の一番の収穫は、新しいお知り合いが沢山できたことです。お世話になった湧学館職員の方々はもちろんですが、講座で知り合った町の方が京極温泉や町のスーパーで声をかけてくれたり、図書のカウンターで講座の感想を話してくれたりと、みなさんに何かと声をかけて頂きながら楽しく有意義な研修期間を過ごすことができました。

あまり例のない教員社会研修を好意的に受け入れ、何かと支援して下さった教育長を始めとする湧学館職員の皆様、京極町の皆様、実り多い時間を頂きましたことを本当に感謝しています。ありがとうございました。



▲ 5/30 園芸教室



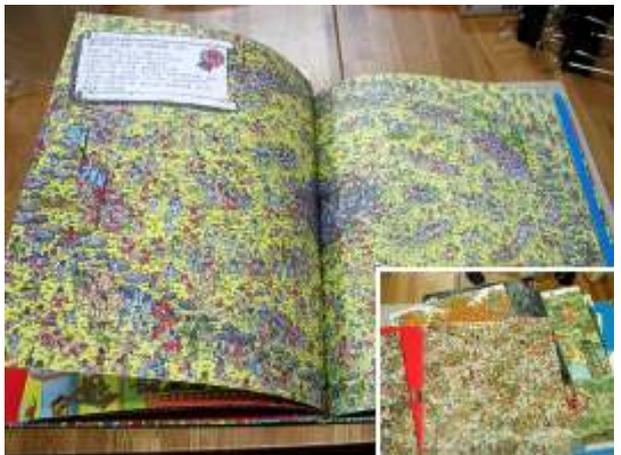
▲ 7/25 夏のお楽しみ会



▲ 10/28 湧水塾学習会～ハーブを楽しむ



▲ 2/17 南京小出前図書館 ブックトーク



▲ 1/16 冬のお楽しみ会(本の病院での修理本)

「製本教室」無事終了！

今年度の製本教室は2月6日と20日の土曜日を使って行いました。講師の先生はもうすっかりお馴染みになった市立小樽図書館製本ボランティア代表の北間正義先生です。つくる本の内容もバラエティを増し、折り本から小型本・中型本など5作品を用意したのですが、結果的に、今年も「折り本」人気は高く、「平家物語巻一」「胆振線写真帳」に希望が集中しました。

「平家物語巻一」は、今年度の平家物語読書会が作成し使用した原文テキストを折り本形式で再構成したものです。「胆振線写真帳」は、大正八年に鉄道院北海道建設事務所が発行した「東倶知安線建設概要」の復刻。昨年秋に湧学館で開催した「鉄路の響き 今は遠く～京極倶知安間鉄道開通から九十年」展のパネルで使用した写真原版はこの本に掲載されたものでした。

予定していた定員5名を大きく上回る9名の参加者。人口約3500人の町で9名もの参加者があったことに今でも驚いています。(3～4万人の町なら100人規模の参加希望があったということになります！) 講師の北間先生のご指導も熱を帯び、表紙の柄(和紙)選びの楽しさが読書室に溢れ、最高の二日間になりました。

来年度も、京極町にゆかりの深い作品を発掘し、湧学館で行われている各種行事、読書会の成果を活かして、より進化した図書館講座を実現して行こうと考えています。ぜひ、ご意見、ご希望をお寄せください。できるかぎりを実現して、文化溢れる京極町づくりの一助になりたいと湧学館はいつも願っています。



(湧学館 新谷保人)



発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京極町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

